

効果検証結果

No.	具体的な事業	検証委員からの評価		
		①本事業が総合戦略のKPI達成に有効であった	②本事業は総合戦略のKPI達成に有効とは言えなかった	検証委員からの意見
1	うだつの町並み滞在型魅力発信事業	有効であったか検証できない。		<ul style="list-style-type: none"> ○魅力ある滞在施設集積のコンセプトが大切。 ○KPI達成に対する効果は、評価不能である。 ○吉田家周辺にある藍蔵や観光交流センター等の施設との関係性については、十分に検討する必要がある。 ○事業の質を確保する方策を、今後考えていく必要がある。
2	地方創生人材育成による「うだつの町並み」空き家・空き店舗再生事業	○		<ul style="list-style-type: none"> ○焦点や特色に欠ける。 ○施設の改修等の準備はかなり整っているのでオフィス誘致の実績を出すことが求められる。(スピード感!!) ○うだつの町並みへのSO誘致や移住者の受入等については、着実に進んでいると思われるが、更にスピードアップして進めてもらいたい。 ○数字で表せない効果も多分にあると思われる。
3	「農林業×伝統工芸×観光」連携推進事業	○		<ul style="list-style-type: none"> ○新しい可能性を見つけられる兆しがある。 ○新しく設立された美馬観光ビューローを中心に体験型観光を推進して多くの人を呼び込むことを期待する。 ○にし阿波体験プログラムも参考にして、ツアーを考えるのも一つかと思う。 ○それなりに目標を達成しているが、過程もよく検証してください。 ○和傘の販売戦略、イメージ戦略を立て、利益に結びつく方策を考えてほしい。
4	「穴吹川～剣山」滞在型インバウンド推進事業	○		<ul style="list-style-type: none"> ○基本的問題として、ブルーヴィラ穴吹が最適な拠点である根拠もデータも不足しているのではないのでしょうか？ また、目標値も低く、達成率も十分でなく、地方創生に効果があったとは言い難い。 ○ブルーヴィラに頼らない「穴吹川～剣山」観光ルートの楽しみ方を設定する必要があるのでは？ ○ブルーヴィラの改修によって、30年度からプラスの影響が出ることを期待したい。 ○PDCAを上手く回しながら、常に改善を目指してほしい。 ○事業名はインバウンド推進事業であるが、外国人宿泊者数目標はわずか332人(増加100人余り)。したがって、日本人客や地域の人を主目的として、インバウンドは添えるような事業名にすべきではなかったか。(和室→洋室などの改装や新メニュー開発がインバウンド向けなのか?)

効果検証結果

No.	具体的な事業	検証委員からの評価		
		①本事業が総合戦略のKPI達成に有効であった	②本事業は総合戦略のKPI達成に有効とは言えなかった	検証委員からの意見
5	四国のゲートウェイを起点とした「おどる宝島★とくしま観光・文化プログラム」発信戦略 [広域連携]	○		<ul style="list-style-type: none"> ○徳島県全体の数値を持って、美馬市の地方創生に効果があったとは言い難い。 ○「にし阿波観光圏」全体としては、観光客が増え活性化につながっているが、美馬市エリアに限って見た場合は事業効果が大きいとは言えないのではないか。 農業遺産等地域資源を十分に活用した、独自性のある取組みに期待したい。 ○広域連携の中で美馬市の部分がどうであったか、を評価する必要があるのではないか？ ○実施事業と目標数値（徳島県内の数値）に強い関連性があるとは思えない。評価指標の設定内容に疑問がある。
6	RESASの活用による人材育成とUターン就職促進事業	○		<ul style="list-style-type: none"> ○自らの活用で効果があり、さらなる意見を求める形で高校生を巻き込むことは良いと思うが、その辺りはどのような現状なのかを知りたい。 また、RESASの活用の以前に地域振興における「データ」の活用、そのことから「強み、弱み分析」がどの程度進んだのか？ その辺りが不明であり、単に「何回やった」「何人が集まった」ということで地方創生に効果があったとは言い難い。 ○RESAS教育、RESAS研修に関するオリジナル教育研修プログラム（受講者層別プログラム、長期短期プログラム、ジャンル別プログラムなど）を徹底して企画し、全国に向けて「RESASを学ぶなら美馬市へGO!」と認知してもらえるような存在を目指してはどうだろうか。講師の確保、都会のホテルとは違った魅力ある宿泊施設の確保など、今持っているノウハウをさらに磨いて「美馬市はRESAS教育の先進的リーダ」としてのポジションを取ることを提案したい。 ○若者に対するRESAS体験の取り組みは、評価できる。この体験を次につなげていくための施策をよく考えてほしい。 ○RESASはデータであって地域などを分析する手段。中・高生や大学生を対象として、教育的見地から使用するのあれば、成果物作成過程でアドバイスが不可欠であり、成果物の質とともに、途中どのような検討がされてきたかも注目すべきだと思う（検討途中で右往左往することで得られる知識もある。）。

効果検証結果

No.	具体的な事業	検証委員からの評価		
		①本事業が総合戦略のKPI達成に有効であった	②本事業は総合戦略のKPI達成に有効とは言えなかった	検証委員からの意見
7	「美馬の子どもたちに『本物の音楽』を」プロジェクト	○		<p>○音楽は教育にとっても地域の文化の育成にとっても重要な要素であるが、それを地方創生に結びつけるのは無理があるように感じる。 また、中学校での開催で参加人数をあげているが、これは自発的な参加者の人数でしょうか？そうでなくて学校行事として強制的な参加であれば、人数ではなく、実施校数（10校）として評価すべきではないでしょうか？</p> <p>○音楽に触れたことによる効果を測定するのは難しい。また、その効果測定指標に、転入者数を使うことには疑問がある。</p> <p>○都会でなくてもプロの演奏に触れられる機会を設けることは、地方都市だからこそ重要だと思う。</p> <p>○単発で終わるのではなく、授業の一環として継続的に実施されるのであれば、アピール度が強くなると思われる。</p> <p>○今回の事業が、すぐに転入者増に繋がるとはとても思えない。評価指標は適切でないと思う。 （計画は「子育て世代」の転出転入対策・・・事業対象は小・中学生なので、ギャップを感じる。） 理由：文化活動は継続することによって人々の心を豊かにし、その積み重ねが数字で表すことができる評価につながっていくと思う。</p> <p>○コンサートを開催した（音楽を聴いた）だけで終わらず、一人一人の感性を磨き、良質な文化活動が生活にとけ込んで生活の質が向上していくことを目指して欲しい。そうした活動ができれば、人が集まるようになっていくだろう。 ただし、それには時間がかかる。</p>